

発行：2018年1月 ニュースレターNo85. WEB版 No10

The Japan Academy of Midwifery Newsletter No.85

一般社団法人 日本助産学会ニュースレター

発行所 一般社団法人 日本助産学会
〒170-0002

東京都豊島区巢鴨 1-24-1
第2ユニオンビル 4F 株式会社ガリレオ
学会業務情報センター内

TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852

E-mail:g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

代表者 高田 昌代

巻頭言 新年にあたってのご挨拶

日本助産学会理事長 高田 昌代

新年にあたり、ご挨拶申し上げます。

平成も30年になりました。小淵元首相が、「平成」と書いた半紙を高々と上げた時、その「成」の字の4画目がやたら長く、なんとも言えないバランスと平和な感覚を覚えたのを昨日のように思い出します。30年の間、日本のお産はどう変化したのでしょうか。そして、この先どのようなのでしょうか。社会や政治に流されることなく、妊産婦やその家族、女性のために、「この先」を創っていかねばなりません。そのため、日本助産学会では、ビジョンー目標ー戦略を立てて、活動を開始しています。

重点的に行っていることをいくつかご紹介します。

まずは、これからの助産学の発展を担っていく若手研究者の育成支援です。昨年からの、これまでの奨励研究等の助成に加えて、若手研究助成を始めています。今年度は2名の方に助成を受けていただきました。さらに、「助産学若手研究者の集い」の結成準備も行ってありますこの3月、横浜で行う第32回日本助産学会学術集会前日に、1回目の集まりを計画しています。研究をしたことのある方、これから研究を始めようとする方、だれでも研究に関心のある若手(年齢制限はないです)が、平場で忌憚のないディスカッションを楽しめる場となることを期待しています。ぜひ、ご参加ください。

本学会の主な目的である原著論文を多く投稿していただくために、投稿・査読にオンラインシステムを導入し、論文受理から学会誌掲載までの期間の短縮に努力しています。皆様の業績が、いち早く世に出せるように、今後も進めていく予定です。

先に、「政治や社会に流されることなく」と書きましたが、助産学の発展のためには、それらを理解しておく必要があります。昨年1年間「助産政策ゼミ」を開講し、全国から多くの方にお集まりいただきました。さらに本学会の委託研究として「院内助産システムの標準化」を現在進めています。助産政策に関するエビデンスづくりに努力し、様々な場で提言も発信していきたいと考えています。

ケアの標準化で重要な「助産ガイドライン」は、妊娠期・産褥期を発行し、Mindsにも掲載しています。「ローリスクの妊娠・分娩・産褥育児期助産ガイドライン」発刊と改訂にむけて、現在産褥期ケア部分を作成中しています。助産ガイドラインは専門職だけでなく、妊産婦もこのガイドラインが読めるようになっていきます。その人にとって満足のいくお産になるようご活用いただくとともに、多くの方々にガイドラインをお知らせいただくようお願いいたします。

本学会としては、社会への貢献も積極的に進めていきます。そのために、エビデンスの結集を女性に分かり易い形でホームページに掲載できるよう、準備も行っていきます。会員の皆さまにも、ホームページやマンスリーメールを通じて様々な情報を発信し、日々の活動にご活用いただきたいと願っています。

今年は戌年。犬が歩けば棒にあたる。

私たちが活動の中で、しっかり歩いて、たくさんの方の棒にあたりたいものです。

第 32 回日本助産学会学術集会のご案内

第 32 回日本助産学会学術集会 会長 村上明美
(神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部 学部長)



テーマ「母子と女性を守る助産の 知と技、そして連携」

第 32 回日本助産学会学術集会は、2018 年 3 月にパシフィコ横浜で開催いたします。

3 月 2 日（金）にプレコングレス、3 月 3 日（土）・4 日（日）に学術集会を行います。今回のメインテーマは「母子と女性を守る助産の知と技、そして連携」です。安全や安心に配慮しながら女性の生涯を通じて健康を支援するために、我々助産師にできることは何かについて、参加者の皆様とともに追究していきたいと考えています。

現在、わが国の少子化の進行は未だ止まらず、子どもの命の重みは増すばかりです。一方で、超高齢社会も進行の一途をたどっており、今後、女性の健康寿命をいかに延伸していくかは我が国の大きな政策課題となっています。

今回の学術集会では、我が国がこのような人口構造の変化に直面する中で、母子や女性に身近に寄り添うことのできる助産師が、命の重さを真摯に受け止め、安全で安心なケアを提供する自らの役割について考える機会となることを期待しています。

プログラムは、メインテーマに基づき「母子や女性を守る」「助産の知と技」「連携」をキーワードに、特別講演、教育講演、シンポジウム、ワークショップ、交流集会、ランチョンセミナー、市民公開講座等を企画しています。また、一般演題では、助産に関する研究や実践について、参加者の皆様と活発なディスカッションを展開していただき、相互に学びを深めたいと考えています。ランチョンセミナーでは、助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー, CLoCMiP®）認証に申請できるプログラムをご用意しました。

CLoCMiP®のプログラムは、事前登録が必要であり、有難いことにすでに申込は満席です。他にも当日参加が可能なランチョンセミナーを多数ご用意しておりますので、そちらにもご参加ください。

会場のパシフィコ横浜は、港町横浜を象徴するみなとみらい地区に位置します。参加者の皆様には、学術集会での学びとともに、ショッピング、グルメ、観光等、横浜の雰囲気をご存分に味わっていただけるものと確信しています。

また、学術集会の会場におきましても、様々な趣向を凝らして皆様を歓迎いたします。オープニングは、本格的な SAMBA のダンスと音楽で盛大に皆様をお出迎えします（だって、私たち『さんば』ですから…）。また、懇親会は、横浜を象徴する景色で有名なインターコンチネンタルホテルに会場を移し、素敵な夜景を眺めながらゴージャスな気分をひたり、参加者の皆様と親交を深めていただく予定です。

皆様にとって実り多き学術集会となりますことを願い、ご参加を心よりお待ちしております。

出産の多様性と未来 アジアの女性が望む出産を通して考える ー東京・新潟での集いの紹介ー

日本助産学会 国際委員会

有森直子 小黒道子 橋本麻由美 鳴澤恭子、関島香代子、高木とも子、谷口初美

2017年12月2日、22日の2日間、聖路加国際大学（東京都中央区）、NEXT21（新潟市）の2会場において、「出産の多様性と未来ーアジアの女性が望む出産を通して考えるー」というテーマでの集いを開催いたしました。主催はそれぞれ、NPO お産サポート JAPAN、新潟大学大学院保健学研究科看護学分野で、日本助産学会は後援という形でした。参加者は、両会場共に50名にも上りました。東京会場は、出産経験者・学生・地域や施設の助産師とバランス良い参加で、新潟会場は助産・看護学生が9割を占めました。

この企画は、日本助産学会 国際委員会のメンバーが中心となり2016年に公益財団法人トヨタ財団 国際助成プログラムの採択「企画題目：分かち合いから得られる出産の多様性と共通性」を得て、アジア（ミャンマー、ラオス、日本）の女性が語る自分の出産の語り（DVD 各国版 15分×3本）を共有するというものです。3つの国の女性自らが語る自分の出産の語りを参加者が聴き、これからの「出産のカタチ」について考える機会としました。

DVDは「あなたの出産体験を教えてください」「出産であなたが大切にしたいものは？」「次の出産はだれとどこで産みたいですか？」の問いに始めは、はにかんでいた女性達が楽しそうに語り続けます。周囲の家族も自分のお産の話をしだしたり、家の周囲の鶏が鳴いたりとても生活感あふれる和やかなインタビュー風景です。

東京では、DVDの他に、出産経験のあるご夫婦、助産学生、若い助産師のスピーチもあり、アンケートの感想は以下の通り。「“女性の声

を聞く”という一番大切なことを再認識した（助産師）」「国と文化が違って女性が出産するということが、自分の子を思うということは変わらなくて、どこでも母と子に寄り添っていくことは大切（助産学生）」「実習では、3か国の女性たちの多くが望んでいた分娩時に“そばにいること”“寄り添うこと”を大切に妊婦とその家族と関わっていききたい（助産学生）」「日本は豊かで、その中で女性ももっともっと出産に興味を持ち、知り、どこで誰と産みたいか考えてほしい（助産学生）」「“安心”の本質を考えさせられた（当事者）」「お若い方がとても勉強され、すごく熱い思いをもたれていて、とても感動した（当事者）」。

新潟の参加者からは、「他国の出産体験を初めて聞いてびっくりすることばかり。自分の世界観が広がった」「様々な出産体験を聞くことで、こんなお産ができるんだーとまず知ることが重要」「国際協働をしている人に会えたことに感動」（学生）や、「本当に安全で幸せなお産を考える機会になった」（助産師）などがアンケートにも記載されていました。

2017年8～11月には、ミャンマーでも、このDVDを女性に視聴してもらいインタビューを行っています。女性たちは、産みの苦しみや出産は命がけということは国が違っても同じであるとして、ミャンマーと日本の出産体験の共通性を見いだしていました。特に、インタビューに応じた女性たちは、このような語る機会を得られたことに喜びを見出していました。ラオスでの視聴会も今年予定しています。

この後は、3つの国での共有の機会を企画していく計画です。皆様のご参加をお待ちしております。

ICM 募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

日頃から、皆様方の暖かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。

引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

☆ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

☆ ICMセーフマザーフッド基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。

一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

ICM 支援のための募金を常時受付けております。

事務局からのお知らせ

一般社団法人日本助産学会事務局

今年度平成 30 年度会費 (10,000 円) 納入について

本学会は、皆様の会費をもとに運営しております。円滑な事業推進のため、会費納入がまだお済でない方は早急に下記まで、氏名・会員番号等を通知の上、お振込みをお願いします。

・郵便振込:00120-2-763540

加入者名:一般社団法人日本助産学会

通信欄に会員番号と納入年度を明記

・銀行振込:ゆうちょ銀行(9900)

〇一九(セロイキョウ)店(019)(当座)0763540

一般社団法人日本助産学会(シヤ)ニホンゾサンカクカイ

氏名と会員番号を通知してください

学会誌投稿(共同研究者含)、学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員で該年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上、お申し込み下さい。また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意ください。

なお、納入会費の領収書発行に関してはお手数ですが事務局宛にメールかFAXでご請求ください。

会費納入・会員番号等に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

変更届について

住所等の変更に関しては、オンライン会員情報管理システム(詳細は下記)で変更手続きが出来ますのでどうぞご利用下さい。以下のホームページからID(会員番号)とパスワードをご入力の上、ログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。

オンライン会員情報管理システム:

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JAM>

ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問い合わせ下さい。

オンライン会員情報管理システムがご利用になれない場合は、変更届の書式は問いませんが必ず書面

(E-mail・FAX・はがき等)に明記して、その都度お早めにお知らせください。本学会ホームページからも

「変更・退会届」の書式がダウンロードできますの

でご利用ください。

変更届は必ずお出しください。学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。

退会届について

退会届の書式は問いませんが、書面(E-mail・FAX・はがき等)でお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

*次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届け出をお願いします。退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくこととなります。特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意ください。ただしいたきたいのですが、会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

学会誌バックナンバー等の販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバーのお申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして希望を記入の上事務局宛にE-mail添付送信するか、FAXしてください。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

※「エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期 2016」は、委託販売(株)日本助産師会出版)となっておりますので、以下のURLからお申し込みください。

<http://www.midwifepe.co.jp/fs/shuppan/shoseki/I-0002>

一般社団法人日本助産学会事務局

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1 第2ユニオンビル4F

株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内

TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852

E-mail: g019.jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jam/>

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。